

11月定例会見における千野所長挨拶内容

新潟県中越地震について

地震発生から20日間となりますが、未だ避難所で生活されている方々も数多くいらっしゃいます。被害にあわれた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

当所においても、所員59名の自宅が損壊、破損などの被害を受け、地震発生直後には13名が避難所生活しておりました。現在でも2名が、避難指示や改修工事のため避難所で生活しておりますが、所員が家族を含めて全員無事であったことに安堵いたしました。

また、設備も7号機でタービンの安全装置が作動し停止しましたが、4号機は定期検査中ですが、その他の号機については運転にかかわる被害もなく安心しております。

原子力発電所の耐震性、安全性については、徹底した地質調査に基づいて活断層がない場所に建設していること、発電所を安定した岩盤の上に設置していること、また、建物の設計についても一般の設計で用いられる地震力の3倍に相当する力を考慮していること、等から十分耐震性に優れていると言えます。建物の耐震性は、今、述べた通りですが、大きな地震が発生した場合には十分な余裕を見て原子炉が自動的に停止します。地震発生以来、当所は地震対策本部を設置して対応しており、強い地震が発生した毎に現場確認を実施し、プラントの運転に影響がないことを確認しております。このように建物構造も、地震時に原子炉が停止するシステムも十分に安全側に立った考え方に基づいていると言えます。従って、原子力の安全は十分確保されており、地域の皆さまにはご安心いただきたいと考えております。

設備面、ハード面での安全性については、今、申し上げた通りですが、一方、地震発生直後の自治体に対する通報連絡、ソフト面について、11月4日、柏崎の西川柏崎市長さんからご指摘・ご要請をいただきました。

自治体への連絡体制は、トラブルが発生した際には、休日や夜間であっても、予め定められている連絡先と連絡先の順番に従って連絡することとなっています。今回もこれに従って対応したのですが、電話回線が非常につながりにくかったことから、結果として、自治体との連絡に時間を要しました。私共としては、連絡方法・手段の改善に向け、地震発生後は24時間、緊急時対策室に要員を配置するとともに、衛星電話、災害時優先電話の確保を早急に行いました。今後も関係自治体の協力も得て、確実な連絡方法・手段を確保するよう努力してまいります。

未だ余震が継続している状況ではありますが、今後とも現状の地震対策本部の体制を維持し、安全確保に万全を期してまいります。

なお、当所は、本社も含めて、今回の地震に遭われた方々に少しでもお役に立てるように支援を実施いたしました。

I A E A (国際原子力機関) O S A R T (安全運転評価チーム) について

11月1日のエントランスミーティングを皮切りに、11月17日までの間、当所4号機および6号機を対象とした評価が行われています。

これまでは、各評価者が日々現場に入り、当所の運転管理状況や、発電所の管理層から担当者に至るまで、直接インタビューにより所員の考え方や業務への取り組み状況などについても確認が行われており、各々専門分野の立場から詳細かつ精力的に活動されています。

今後、各評価者が各々収集した評価材料を取りまとめ、発電所全体の管理上の問題点や改善点、好事例などについて、OSART としての評価を取りまとめる段階となつてまいります。

最終的な評価結果は、今回の OSART 訪問の後、数ヶ月後に報告書として取りまとめられる予定です。

以 上

添付) 柏崎刈羽原子力発電所 D A T A ・ B O X

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX (H16年11月)

平成16年11月11日

発電所運転状況

プラント名	現在の運転状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況											補足説明
			12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1号機 1,100MWe (S60.9.18運開)	運転中	第13回 H14.9.3 ~ H16.5.14 停止期間H14.9.3 ~ H16.4.8(584日) (原子炉起動H16.3.27)	原子炉自動停止											[2号機] ・使用済燃料貯蔵プール、リラクキング工事中。 [4号機] ・第8回定期検査中 ・10月29日シュラウド中間胴予防保全対策(ウォータージェット・ピーニング)終了。 ・11月8日より原子炉再循環系配管の補修工事を開始。(お知らせ済) [5号機] ・使用済燃料貯蔵プール、リラクキング工事中。 [6号機] ・11月10日に経済産業省の総合負荷性能検査に合格し、営業運転を再開。(お知らせ済) [7号機] ・11月4日の地震にともない、「タービンラスト軸受摩耗トリップ」の信号によりタービンが自動停止し、これにともない原子炉も自動停止した。今回の事象は、地震によるタービン軸方向の揺れによるものと推定。点検により異常がなかったことから、準備が整い次第、プラントの起動操作を開始することとした。(お知らせ済)
2号機 1,100MWe (H2.9.28運開)	運転中	第10回 H15.3.10 ~ H16.8.3 停止期間H15.3.10 ~ H16.7.2(481日) (原子炉起動H16.6.28)	第10回定期検による停止											
3号機 1,100MWe (H5.8.11運開)	運転中	第7回 H14.8.10 ~ H16.5.25 停止期間H14.8.10 ~ H16.4.18(618日) (原子炉起動H16.4.14)	第7回定期検による停止											
4号機 1,100MWe (H6.8.11運開)	第8回定期検査中 H16.8.7 ~	第7回 H15.1.7 ~ H15.8.20 停止期間H15.1.7 ~ H15.7.25(200日) (原子炉起動H15.7.22)	第8回定期検による停止											
5号機 1,100MWe (H2.4.10運開)	運転中	第10回 H15.3.1 ~ H16.6.4 停止期間H15.3.1 ~ H16.4.30(427日) (原子炉起動H16.4.27)	第10回定期検による停止											
6号機 1,356MWe (H8.11.7運開)	運転中	第6回 H16.7.10 ~ H16.11.10 停止期間H16.7.10 ~ H16.10.15(98日) (原子炉起動H16.10.12)	第6回定期検による停止											
7号機 1,356MWe (H9.7.2運開)	停止中 H16.11.4 ~	第5回 H15.9.23 ~ H16.2.18 停止期間H15.9.23 ~ H16.1.19(119日) (原子炉起動H16.1.16)	第5回定期検による停止											

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

発電所設備利用率 (%) (10月末現在)

10月	79.6
16年度累計	77.7
運転開始後累計	77.9

発電所発電電力量 (MWh) (10月末現在)

10月	4,863,630
16年度累計	32,755,164
運転開始後累計	661,728,274

ドラム缶発生量 (本) (H16年度第2四半期)

当期発生本数	323
貯蔵庫累積貯蔵本数	12,705
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数 (体) (H16年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	10,828
使用済燃料貯蔵プール管理容量	15,281
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	20,845

構内従業員データ (11月1日現在)

従業員数 (人)	東京電力	990	
	協力企業	3,774	
	合計	4,764	
協力企業地域別比率	県内	柏崎市	53%
		刈羽村	7%
		その他	20%
		小計	80%
	県外	20%	
協力企業社数 (社)		464	

来客情報 (10月末現在)

	10月(人)	年度累計(人)
地元	693	9,423
県内	1,583	13,218
県外	3,194	22,311
国外	34	427
合計	5,504	45,379

今後の主なスケジュール

予定日	内容
12月5日	おもしろ実験・工作教室 (カムフィー)
12月9日	次回定例所長会見予定
12月16日	「スタンドグラス教室」(き・な・せ)
12月17・18日	「スタンドグラス教室」(柏崎エネルギーホール)

テレホンサービス 0180-99-2277
 インターネットホームページアドレス <http://www.tepco.co.jp/kk-np/>

東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所
広報部
 0257-45-3131(代)